

専 門 分 野 II
老 年 看 護 学

老 年 看 護 学

【目 的】

老年期にある対象と家族および支える人々を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護を實踐できる基礎的能力を養う。

【目 標】

- 1 高齢者の特徴を理解し、老年看護の概念および機能と役割が理解できる。
- 2 高齢社会の保健・医療・福祉の現状及び課題と対策が理解できる。
- 3 高齢者の特徴をふまえて、生活機能を整える看護を理解できる。
- 4 高齢者の健康障害の特徴と高齢者の健康を支える看護が理解できる。
- 5 高齢者の特徴と健康障害による生活への影響を考え、生活機能の視点から看護を展開する方法が理解できる。
- 6 自己の高齢者観を深めることができる。

【構成および計画】

< 講義 >

科 目	単位数	時間数	学年別計画時間		
			1年	2年	3年
老年看護学概論	1	30	1 (30)		
高齢者の日常生活援助技術	1	30	1 (30)		
高齢者の健康障害時の看護	1	30		1 (30)	
高齢者の看護過程	1	15		1 (15)	
合 計	4	105	2 (60)	2 (45)	

< 臨地実習 >

科 目	実 習 内 容	単位 (時間)	時 期
老年看護学実習Ⅰ	入院中の高齢者の日常生活援助	2 (90)	2年次
老年看護学実習Ⅱ	健康障害のある高齢者の看護	2 (90)	2～3年次
合 計		4 単位 (180 時間)	

老年看護学のねらい

成長発達の最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかにその人らしい死を迎えられるべき段階である。高齢者の長い人生経験に培われた知恵、個人の生き方・価値観を尊重し、個別な存在として理解する必要がある。

加齢変化は、身体生理機能の低下を引き起こすと同時に、高齢者の生活や社会・心理的側面にも大きな影響を及ぼす。また、高齢者の健康障害は、恒常性維持機能の低下と複数の疾患を抱えていることに伴いより個別的で複雑である。その上、合併症・急性増悪・慢性化・廃用症候群等の様々な問題が発現しやすく健康問題が複雑化・長期化しやすい。

今後、さらなる高齢社会の進展に伴い、要介護高齢者の増加が予想される。在院日数の短縮化が加速化しているなかで、医療の場から・施設・在宅などの生活の場へのスムーズな移行を図るためには、入院時から退院後の生活を視野に入れた看護の提供や、利用可能な保健医療福祉サービスの他職種間の連携が強く望まれている。

高齢者看護においては、高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力やアセスメント能力、QOLの維持・向上を目指した個別性に合わせた生活援助が展開できる能力が求められる。時代の変化や動向に合わせて、患者・家族のニーズを基盤とした退院支援に関する知識・技術を学習する。

「老年看護学概論」

看護の基本的概念である、「人間」「健康」「環境」「看護」を高齢者に特化することで、老年看護に必要な学習内容を抽出した。高齢者の健康を理解するために、加齢変化・加齢に伴う生活の変化を学び、高齢者の看護について関心と理解を深める。また、高齢者や家族の生活や健康を支える保健医療福祉の現状と課題を明確化し、その対策としての社会制度を共に学ぶことで、高齢者の自立支援、権利擁護の遵守やQOLを高めるための高齢者看護の基本を学習する。

「高齢者の日常生活援助技術」

高齢者が、加齢変化により生活に支障をきたしやすい。生活機能評価（ICFやCGA）や日常生活行動の評価（BADLやIADL）と維持・向上の視点から残存機能を活用した援助、および生活を円滑に進めるためのコミュニケーション技術について学ぶ。また高齢者に特有の加齢変化から起こりやすい事故の予防・安全対策をはじめとした老年看護技術を学習する。

「高齢者の健康障害時の看護」

高齢者の健康障害は、非定型的で、複数の疾患を独立的かつ併存的に抱えている。また、合併症・急性増悪・慢性化・廃用症候群等の様々な問題が発現し、健康問題が複雑化・長期化しやす

い。些細な健康障害が高齢者に及ぼす影響や家族への影響も大きい。健康障害の特徴をはじめとして、高齢者の健康段階や受療形態に応じた看護を学ぶ。また、高齢者が病院に入院した場合、個々の患者・家族のニーズを基盤としながら、安全・安楽な援助と社会資源を活用した退院支援に向けた援助が実践できるように学習を深めていく。

さらに、人生の最終ステージである終末期では、長い人生の最後のその瞬間までその人らしく有意義に生きるためのQOLの維持・向上を支える高齢者看護を学習する。

「高齢者の看護過程」

健康を障害された高齢者の生活機能の観点からアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶ。ここでは運動機能や感覚機能に障害のある高齢者を事例とし、加齢変化に着眼したアセスメントおよび計画立案ができるための学習をする。様々な健康障害を抱える高齢者を包括的にアセスメントする能力を養い、QOLの向上を踏まえた看護を展開できるようにする。高齢者や家族、さらに社会のニーズに応じた看護を提供するために老年看護学への興味と関心を育んでいく。

「老年看護学実習Ⅰ（高齢者の日常生活援助）」

加齢変化は身体生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理的側面に大きな影響を及ぼす。特に老化や疾病から入院となった急激な環境の変化は、高齢者に身体機能としての日常生活機能の低下だけでなく、認知能力や個人の価値観が確立している高齢者のQOLまでも低下させる。

臨地実習では、入院により日常生活に支障をきたしている高齢者の特徴を理解し、疾患や治療による影響や加齢変化を考慮した日常生活援助技術の習得を目指す。また、対象のライフイベントを捉え、個別性や高齢者像とそれらをふまえた看護への活用について考え、老年看護の原則を学び、自己の高齢者観を育んでいく。

「老年看護学実習Ⅱ（健康障害のある高齢者の看護）」

高齢者の健康障害は、非定型的で、複数の疾患を独立的かつ併存的に抱えている状態である。また、合併症や急性増悪、廃用症候群等の様々な問題が発現し、複雑化・長期化しやすいため、高齢者のADLに及ぼす影響だけでなく家族への影響も大きい。

臨地実習では、あらゆる健康段階にある対象の加齢変化の把握と病態の理解を深め、健康レベルとゴールを見定め、QOLの維持・向上を目指した看護実践を学ぶ。そのためには、様々な健康障害を持つ高齢者を受け持ち、高齢者を包括的に捉えアセスメントし、高齢者を取り巻く人々や社会の変化と共に社会資源を活用した看護が展開できるための知識・技術の習得、さらには自己の高齢者観を育むことを目指す。

科目 老年看護学概論 1単位（30時間）

科目目標：1 老年期の特徴を踏まえ高齢者看護の概念を理解する
 : 2 高齢者と家族の健康・生活を支える保健・医療・福祉の現状と課題を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
老年期の概念	2	1 老年期の特徴が理解できる	1 老年期の概念 1) ライフサイクルにおける老年期 2) 老年期の発達課題 3) 加齢と老化、 4) 加齢への適応（喪失体験・死生観・サクセスフルエイジング・スピリチュアリティ） 2 高齢化の要因と特徴 1) 高齢者人口・高齢化率の推移 2) 前期・後期高齢者の人口比 3) 性差・地域差	専任教員
高齢者の健康	16④	1 高齢者の健康と健康状態について理解できる 2 加齢に伴う生活の変化が理解できる	1 老年期の健康指標 1) 疾病構造と有病率・有訴者率・通院率 2) 受療行動と受療率 3) 要介護高齢者の出現率と動向 4) 平均寿命と主要死因・死亡率・死亡場所 1 加齢に伴う変化の特徴 1) 身体的変化 2) 精神的変化 3) 社会的変化 4) 高齢者の性（セクシュアリティ） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 校内実習 〈4H〉 高齢者擬似体験 </div>	
高齢者の生活	6	高齢者と家族の生活および健康を支える保健医療福祉施策について理解できる	1 高齢者の暮らし 1) 経済状態 2) 就労・雇用 3) 社会参加 2 高齢者と家族機能の変化 3 高齢者とソーシャルサポートシステム 4 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度 1) 保健医療福祉制度の変遷 2) 介護保険制度とサービス 3) 高齢者医療のしくみ 5 その人らしい生活の継続 1) 時代背景に関連する人生経験の多様性、生活史 2) 生活習慣・生活様式・生活リズム 3) 医療から在宅・施設につなげる継続看護 (1) 地域包括ケアシステム	

科目 高齢者の日常生活援助技術 1単位（30時間）

科目目標：加齢による日常生活への影響を理解し、生活機能低下の予防と再獲得に向けた援助を習得する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
高齢者の生活機能と包括的アセスメント	2	高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点が理解できる	1 生活機能と評価 1) 国際生活機能分類 (ICF) 2) 基本的日常生活動作 (BADL) と手段的日常生活動作 (IADL) 3) 障害高齢者の日常生活自立度 ＜寝たきり度＞判定基準 4) 認知症高齢者の日常生活自立度 ＜寝たきり度＞判定基準 5) 高齢者総合機能評価 (CGA)	専任教員
高齢者の日常生活を支援する援助技術	26⑫	1 高齢者のコミュニケーション技術が理解できる 2 食生活を支える援助技術が習得できる 3 皮膚・粘膜の機能を高める援助技術が習得できる	1 高齢者とのコミュニケーション技術 1) コミュニケーション能力とコミュニケーションを阻害する影響因子のアセスメント (1) 感覚器系の加齢変化による影響 (2) 記憶・理解力の変化による影響 2) 高齢者とのコミュニケーション方法、留意点 3) 補聴器を使用する高齢者とその家族への援助 1 食生活を支える援助技術 1) 加齢による食生活への影響 2) 食生活と栄養状態のアセスメント 3) 嚥下能力、嗜好、環境を踏まえた援助 4) 低栄養と脱水予防への援助 校内実習 (4H) 嚥下機能が低下した高齢者の食事援助 (嚥下体操、口腔ケア、義歯の管理) 経管栄養の管理 (胃チューブの挿入・確認含む) 1 皮膚・粘膜の機能を高める援助技術 1) 加齢による清潔・衣生活行動への影響 2) 清潔・衣生活のアセスメント 3) 清潔・衣生活の援助 4) 掻痒感に対する援助	

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
まとめ・試験	2	4 排泄行動を支える援助技術が習得できる	<p>1 排泄行動を支える援助技術</p> <p>1) 加齢による排泄機能・行動への影響</p> <p>2) 排泄機能・行動のアセスメント</p> <p>3) 排便障害・排尿障害時の援助</p> <p>4) 留置カテーテル挿入・管理（見せる技術）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校内実習 〈4H〉</p> <p>排泄・清潔への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失禁時の陰臀部の清潔援助（陰部洗浄）、 おむつ交換、ポータブルトイレでの排泄援助 </div>	
		5 活動・休息への援助技術が習得できる	<p>1 活動・休息の援助技術</p> <p>1) 高齢者の活動に影響を及ぼす因子</p> <p>2) 高齢者の活動のアセスメント</p> <p>(1) 歩行・移動動作能力 (2) 活動耐性</p> <p>(3) 周囲の環境</p> <p>(4) 認知能力（危険の察知）</p> <p>(5) 活動意欲</p> <p>3) 高齢者の活動の拡大に向けての援助</p> <p>(1) 起き上がり動作 (2) 歩行・移動動作</p> <p>(3) 自助具の活用</p> <p>(4) 活動意欲への働きかけ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>校内実習 〈4H〉</p> <p>離床への働きかけ</p> <p>歩行・移動動作（杖歩行・移動介助）</p> </div>	
		6 高齢者の事故防止への援助技術が理解できる	<p>4) 高齢者の休息・睡眠への援助</p> <p>(1) 高齢者の睡眠の特徴と影響因子</p> <p>(2) 睡眠・休息に関するアセスメント</p> <p>(3) 睡眠を整える援助</p> <p>(4) 生活を整えるための援助</p> <p>1 高齢者の事故防止への援助技術</p> <p>1) 転倒・転落</p> <p>(1) 転倒・転落の発生要因と背景</p> <p>(2) 転倒のアセスメント</p> <p>(3) 転倒・転落予防の援助</p> <p>2) 誤嚥・窒息</p> <p>3) 熱傷</p>	
		7 高齢者の社会参加を促進する援助技術が理解できる	<p>1 高齢者の社会参加促進への援助技術</p> <p>1) 社会参加のアセスメント</p> <p>2) 生きがいが持てる社会参加への援助</p>	

科目 高齢者の健康障害時の看護 1単位（30時間）

科目目標：高齢者の健康障害の特徴を理解し、健康障害に応じた看護について理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
高齢者の健康障害の特徴	2	高齢者の健康障害の特徴が理解できる	1 健康障害のある高齢者の理解 1) 老化の要因と原因 2) 老年病と老年症候群 (1) 老年病とは (2) 老化と老年病・老年症候群との関連 (3) 老化に伴う機能変化による健康障害の特徴 ①予備力②回復力③防衛力④適応力 3) 老年病の特徴と看護上の問題	専任教員
健康段階や受療形態に応じた看護	16②	1 治療を受ける高齢者への看護が理解できる 2 受療形態に応じた看護が理解できる	1 治療を受ける高齢者への看護 1) 薬物療法を受ける高齢者の看護 (1) 高齢者と薬物動態、薬物療法の特徴 (2) 薬物とリスク管理 ①疾患の重複による多剤投与 ②薬物有害事象を招きやすい薬物 (3) 薬物療法時の看護 2) 手術を受ける高齢者の看護 (1) 生理機能の変化と手術療法のリスク (2) 術前・術後のアセスメントと看護 (3) 高齢者に起こりやすい術後合併症と看護 3) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 (1) 高齢者に対するリハビリテーションの意義と特徴 (2) 身体可動性障害のある高齢者の看護 (3) 廃用症候群（生活不活発病）の予防と看護 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 校内実習 〈2H〉 褥瘡予防の援助、褥瘡部の観察・処置 </div> 1 受療形態に応じた看護 1) 入院時の看護 2) 外来受診時の看護 3) 検査時の看護 (1) 不安の緩和 (2) 安全の確保（検査前・中・後） (3) 患者・家族への配慮 4) 退院時の看護 (1) 退院計画と退院支援 ①患者・家族のニーズの理解 ②入院早期のスクリーニング (2) 退院指導 ①退院時の具体的な生活のイメージ化 ②退院時の問題の明確化 ③家族の負担を軽減できるための方法 (3) 地域医療連携部門の活用	看護師

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
治療・介護を必要とする 高齢者の家族の看護 多様な生活の場における 高齢者への看護	4	3 認知機能が低下した高齢者の看護が理解できる	1 認知症高齢者の看護 1) 定義 2) 高齢者の認知症の原因と分類、評価法 3) 中核症状と行動・心理症状 (BPSD) 4) 認知症の治療・看護 (予防含む) 5) 認知症高齢者の人権と権利擁護 2 うつ 3 せん妄	専任教員
	2	4 終末期にある高齢者の看護を理解できる	1 終末期にある高齢者の看護 1) 終末期の概念と高齢者の晩年期の特徴 2) 死の捉え方、エンド・オブ・ライフ・ケア 3) 終末期における生き方や死の迎え方の意向 アドバンスデレクティブ、リビングウィル 2 家族参加と家族支援 1) 家族への対応と看取り看護への参加 2) グリーフケア	
	2	治療・介護を必要とする高齢者の家族への看護が理解できる	1 介護家族の生活と健康状態 2 介護家族への看護 1) 介護状況の把握 2) 介護適応のための看護	
	2	1 療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護が理解できる 2 高齢者に特徴的な災害時の看護が理解できる	1 療養生活を支える施設の種類と特徴 2 療養生活の場に求められる看護の役割 1 災害に対する高齢者特有のリスク 2 災害サイクルに伴う看護支援	
	まとめ・試験	2		

科目 高齢者の看護過程 1単位 (15 時間)

科目目標：高齢者の特徴と健康障害の特徴をふまえ、生活機能に着目した看護過程の展開方法を理解する

単元名	時間数	単元目標	内 容	実務経験のある 教員による授業
高齢者の特徴を踏まえた事例展開	14	健康障害のある高齢者の特徴をふまえて看護過程の展開ができる	<p>1 高齢者の特徴を踏まえたアセスメントの視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢変化 2) 日常生活の状況、生活習慣 3) 疾病・症状及び経過 4) 価値観・健康の認識 5) 心理状況 6) 認知・コミュニケーション能力 7) 家族背景・役割 <p>2 事例を用いた健康障害のある高齢者の看護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 入院による影響と高齢者の特徴をふまえたアセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1) 加齢変化（身体的・精神的・社会的）及び疾患の日常生活への影響 (2) 疾患の経過・治療 (3) 認知、理解の程度 (4) 生活習慣、価値観、健康に関する認識 (5) 家族背景、サポート状況 2) 看護問題の明確化 3) アセスメントに基づいた看護計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活機能、その人の望む生活のあり方を考慮した目標設定 (2) 加齢変化、生活習慣を考慮した援助 (3) 強み、残存機能を活用した援助 (4) 患者の個別性や自尊心に配慮した計画 (5) 活動と休息と生活リズムを考慮した計画 (6) 事故防止を配慮した計画 (7) 二次障害の予防に向けた計画 (8) 家族への援助 4) 援助の実施・評価 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 演習 <10 h> 高齢者に特有な疾患に罹患した後期高齢者の事例 例) 脳梗塞または大腿骨頸部骨折 </p>	専任教員
試験	1			

